

学科	美容科	担当教員	宗像				
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ねらい	法律が美容業・美容師とどう関わるのか、具体的な事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることを意識し、社会に出た際に直面する問題にも対応できるように学んでいく。						
授業回	学習内容			備 考			
1	(1) 法制度の概要・法とは何か (2) 美容師免許の取得方法 【到達目標】法律とは何かを説明できる。美容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。美容師免許を取得するまでの過程を説明できる。						
2	(1) 用語の定義 (2) 美容師免許制度 【到達目標】法律上「美容」や「美容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。美容師免許の取得後の扱いについて説明できる。						
3	(1) 美容師の守るべき義務 (2) 美容師に対する行政処分 (3) (1) 管理美容師 【到達目標】美容師の負う義務について知るとともに、違反の種類によりどの処分がだされるかが理解する。管理美容師の仕事内容・資格の取得方法など管理美容師の全てを体系的に把握できる。						
4	(1) 美容所の開設 (2) 立入検査 【到達目標】美容所の開設の手順を説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる。						
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 美容所以外の業務 【到達目標】開設者が負う義務とそれに対する処分を理解する。美容所以外で美容業ができる場合を説明できる。						
6	(1) 行政処分・罰則 【到達目標】誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に答えることができる。						
7	(1) 行政機関・保健所・衛生行政 (2) 美容師法の知識のまとめ 【到達目標】保健所が行政機関としてどのように美容所に関わっているかを説明できる。次年度に向けて、美容師法の内容を総整理し、美容師法の内容を説明できる。						
8	学科試験						
到達目標	美容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的な場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター）						

学科	美容科	担当教員	高橋				
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ねらい	美容師として公衆衛生の維持向上の必要性を学び、環境や自然が人々の健康に及ぼす影響を考察する。地球の自然環境を守り、生活習慣を適正化する知識を広める。						
授業回	学習内容			備 考			
1・2	〔公衆衛生 第1章 第1・2節〕 公衆衛生の意義・発展の歴史 【到達目標】公衆衛生の歴史及び業績のある人物について学び、公衆衛生の必要性を説明することができる						
3・4	〔公衆衛生 第1章 第3・4節〕 美容師と公衆衛生・保健所 【到達目標】美容師と公衆衛生の歩みを理解し、様々な地域で現在抱えている問題を提議できる。日本の保健所の役割を理解し、多岐にわたる事業内容を説明できる						
5・6	〔公衆衛生 第2章 第1節〕 保健 【到達目標】様々な統計を読み取り、我が国の抱えている問題を見つけることができる。健康づくりの為に創設された、母子保健・生活習慣病・高齢者保健について説明できる						
7	〔公衆衛生 第2章 第2節〕 保健 【到達目標】各種保険・介護福祉サービス・精神保健福祉について、説明できる						
8	公衆衛生の知識を問題形式で復習し、理解の不足している所を見つけだす						
9・10	〔環境衛生 第1章 第1節〕 概要・目的・意義 〔環境衛生 第1章 第2・3節〕 空気環境・衣服・住居の衛生 【到達目標】空気成分や有害物質、照明や冷暖房について学び、日常生活に役立てられる						
11・12	〔環境衛生 第1章 第5・6節〕 上下水道と衛生害虫・水質汚濁 【到達目標】浄水の仕組み、害虫、水質等の環境保全について説明できる						
13	環境衛生の知識を問題形式で復習し、身についているかを確認し、解説により総復習する						
14	公衆衛生・環境衛生の全範囲を国家試験の出題傾向をもとに、身についているかを確認し、解説により総復習する						
到達目標	公衆衛生と環境衛生についての必要性と美容師に求められる責任を理解し、公衆衛生の維持向上を実践できるようになる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター「衛生管理」、配布プリント						

学科	美容科	担当教員	高橋				
科目名	衛生管理(感染症)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ねらい	微生物の構造を学び、感染症発生の要因に関する知識を身につける。また、感染症の分類や予防に関して、また各感染症の特徴を覚え、法律に規定された必要項目を理解した上でお客様に施術できるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1・2	〔第1章第1・2節〕 人と感染症・病原微生物 【到達目標】 感染症発見の歴史を人名や業績から学び、人類が感染症とどのように闘ってきたのかを考える。微生物の構造や特徴と、感染症を伝播しない為に必要な知識を理解し説明することができる。						
3・4	〔第2章第2節〕 主な感染症 【到達目標】 空気・飛沫で感染する感染症、飲食物から感染する感染症について理解し、説明することができる。						
5・6	〔第2章第2節〕 主な感染症 【到達目標】 血液等から感染する感染症、動物から感染する感染症について理解し、説明することができる。						
7	〔第1章第1節 感染症の法律・分類〕 【到達目標】 法的分類に分けて、各種感染症について理解し、説明することができる。						
8	「第1章1-2節・第2章第2節」の範囲 理解し身についているかを確認し、復習する。						
9・10	〔第1章第3節〕 感染症の予防 【到達目標】 病原性と人体の感受性の関係を理解する。感染症発生の要因を理解し、感染予防の3原則について説明することができる。						
11・12	〔第2章第1節・第3節〕 美容と感染症 具体的な対策 【到達目標】 美容業の業務の性質を考え、実際に起こりうる感染症に対して予防対策を実施することができる。						
13	「第1章3節・第2章第1・3節」の範囲 理解し身についているかを確認し、解説により復習する。						
14	感染症全範囲を国家試験の出題傾向をもとに、身についているかを確認し、解説により総復習する。						
到達目標	美容の業務を美容師だけに行わせる意味を理解し、感染症を伝播させないために必要な知識を身につけることにより、美容室で衛生上の危害を防止することができる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター「衛生管理」、プリント						

学科	美容科	担当教員	工藤		
科目名	衛生管理 (衛生管理技術・衛生管理の実践例)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ねらい	美容業務及び関係法規と消毒との関連を理論的に理解し、美容所における清潔の保持と適切な消毒方法を選択出来る知識と技術を身に付け、客や美容師自身を感染症から守る意識を醸成する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な衛生管理実践例</li> <li>・実際の美容所における消毒の実際</li> <li>・消毒の基礎知識と意義</li> <li>・美容業務と消毒との関係</li> </ul> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容業・美容所における消毒の必要性を認識し、消毒の意義・原理・定義を述べることができるようになる</li> <li>・消毒に関連のある美容師法関係法令を十分理解し、消毒を怠った場合の危険性と責任について述べることができる</li> </ul> <input type="checkbox"/> 小テスト			第4編 第1章 1節・2節・3節  P144～153	
2	<p>○消毒法と適応上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒の種類と消毒に必要な条件</li> <li>・病原微生物の抵抗力</li> <li>・消毒薬・消毒薬使用液の使用、保存上の注意</li> </ul> <p>○消毒法各論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学的消毒法（紫外線消毒、煮沸消毒、蒸気消毒）</li> </ul> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学的消毒法と科学的消毒法の種類と用途と効果を理解し、適切な消毒方法を選定する目安がわかるようになる</li> </ul> <input type="checkbox"/> 小テスト			4節 第2章 1節  P154～166	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール系</li> <li>・次亜塩素酸ナトリウム</li> <li>・界面活性剤（逆性石けん・両性界面活性剤）</li> <li>・グルコン酸クロルヘキシジン</li> <li>・その他の消毒</li> </ul> <input type="checkbox"/> 小テスト			第2章 2節  P167～175	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐれた消毒法の条件と消毒を行う際の注意事項</li> <li>・各種消毒薬・器具の使い方</li> <li>・各種消毒薬希釈法</li> </ul> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒薬の希釈に用いる器具の扱い方を理解し、正しく使用することが出来るようになる。</li> <li>・消毒薬を希釈する際の濃度計算が出来るようになる</li> </ul> <input type="checkbox"/> 小テスト			3節 第3章 1節  P176～P192	

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3の消毒薬の特長と希釈方法の復習</li>   <input type="checkbox"/>計算問題                       &lt;到達目標&gt;           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消毒薬の希釈に用いる器具の扱い方を理解し、正しく使用することが出来るようになる。</li> <li>・ 消毒薬を希釈する際の濃度計算が出来るようになる</li> </ul> <input type="checkbox"/>小テスト         </ul>	3節 第3章 1節 P176～P192
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美容所の消毒の実際               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美容所の清潔法の実際</li> </ul>                 &lt;到達目標&gt;               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美容所の消毒設備と消毒物件に適した消毒方法の選定と注意点が説明できるようになる</li> <li>・ 美容所の清潔保持のために実施すべき消毒法を説明できるようになる</li> </ul> <input type="checkbox"/>小テスト             </li> </ul>	第3章 2節・3節 P193～209
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美容所における衛生管理要領               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的～衛生的取り扱い</li> <li>・ 消毒～自主的管理体制</li> <li>・ 第4編1章～第5編2章（すべて）の範囲の振り返り</li> </ul> <input type="checkbox"/>模擬試験                       &lt;到達目標&gt;           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 70点以上を取り、学科試験対策とする</li> </ul> </li> </ul>	第5編 第1章 1節・2節 P212～244
8	後期学科試験	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美容業における消毒の必要性・重要性を関連法規と連動して理解できる</li> <li>・ 状況や消毒物件に応じた消毒方法・消毒薬の選定と希釈方法を実践することができる</li> <li>・ 自身や客への感染症予防の為の衛生措置を理解し、実践することができる</li> </ul>	
評価方法	小テスト20% 学科試験80% そのほか出席状況や受講態度等も考慮する	
テキスト	公益社団法人日本理容美容教育センター【衛生管理】	

学科	美容科	担当教員	松戸		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	美容、理容に関連した頭頸部を中心とした体の構造や、体の構造と機能を学び、人々の心と体の健康に美容師が与える影響を考えられる				
授業回	学習内容				備 考
1	保健（人体）を学ぶにあたって ／ 第1章 体表解剖学				
2	第2章 骨格器系／第3章 筋系				
3	第4章 神経系／第5章 感覚器系				
4	第6章 血液と免疫系				
5	第7章 循環器系				
6	第8章 呼吸器系				
7	第9章 消化器系				
	学科試験				
到達目標	(①美容師が保健を学ぶ目的が理解できる ②骨格、筋肉、食事、睡眠が美容、理容との関連性を理解できる				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター 保健 （大日本印刷株式会社）				

学科	美容科	担当教員	田島				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪の健康管理ができる深い知識を習得する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	第1章 皮膚の構造			小テストを実施			
2	第2章 皮膚付属器官の構造-1			小テストを実施			
3	第2章 皮膚付属器官の構造-2			小テストを実施			
4	第3章 皮膚の循環系と神経系			小テストを実施			
5	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能-1			小テストを実施			
6	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能-2			小テストを実施			
7	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-1 及び 試験対策			小テストを実施			
8	上記内容の皮膚科学に関する前期試験			定期試験			
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	保健 (日本理容美容教育センター指定教科書)						

学科	美容科	担当教員	田島				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪の健康管理ができる深い知識を習得する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-2			小テストを実施			
2	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-3			小テストを実施			
3	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-1			小テストを実施			
4	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-2			小テストを実施			
5	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-3			小テストを実施			
6	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-4			小テストを実施			
7	皮膚科学全般のまとめと試験対策			小テストを実施			
8	皮膚科学全般に関する試験			定期試験			
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	保健 (日本理容美容教育センター指定教科書)						

学科	美容科	担当教員	村松		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	美容師として必要な香粧品化学の専門知識を習得し、提案力を身につける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ガイダンス 香粧品総論1：香粧品の社会的意義 香粧品原料1：香粧品の成り立ち、コロイド溶液の基礎、界面活性剤の基本性質 [到達目標] ①香粧品化学の学習の対象を明確にし、学習の流れをつかむ。 ②コロイド溶液の種類、乳化の状態はどのようなものか、説明できる。 ③界面活性剤の基本性質は何か、説明できる。			小テスト実施	
2	香粧品原料2：界面活性剤の種類と応用 [到達目標] ①界面活性剤の種類は何か、説明できる。 ②界面活性剤は香粧品にどんな使われ方をするか、説明できる。			小テスト実施	
3	香粧品原料3：水性原料および化学の基礎概略、化粧水 [到達目標] ①無機化学の基礎概略を知り、アルコールの種類と性質について説明できる。 ②水性原料の種類と性質は何か、説明できる。			小テスト実施	
4	香粧品原料4：油性原料（油脂、ロウ類、炭化水素）および化学の基礎概略、クリーム [到達目標] ①有機化学の基礎概略を知り、エステルについて説明できる。 ②油脂・ロウ類・炭化水素の種類と性質、機能は何か、説明できる。			小テスト実施	
5	香粧品原料5：その他の油性原料と機能、高分子化合物 [到達目標] ①高級脂肪酸、高級アルコール、脂肪酸エステル、シリコーンの性質、機能は何か、説明できる。 ②高分子化合物の種類は何か、どのような使われ方か、説明できる。			小テスト実施	
6	ヘアケア製品1：シャンプー・リンス・トリートメント料 [到達目標] ①シャンプー・リンス・トリートメント料の種類・機能・原料を説明できる。 ②シャンプー・リンス剤の成分から界面活性剤を区別できる。			小テスト実施	
7	ヘアメイクアップ製品1：ヘアスタイリング料、試験対策 [到達目標] ①スタイリング料の種類、機能と原料は何か、説明できる。 ②国家試験を鑑みた前期の重点項目を再確認し、確実な知識を得る。			小テスト実施	
	学科試験				

授業回	学習内容	備 考
8	香粧品総論2：香粧品の品質特性、法規制 安全性と安定性 [到達目標] ①香粧品の品質特性と法規制は何か、説明できる。 ②香粧品の安定・安全性の必要性と問題は何か、説明できる。	小テスト実施
9	香粧品原料6：製品を安定させる配合原料 その他の機能性配合原料1（保湿剤など）、サンケア [到達目標] ①製品の安定させる配合原料の種類と機能は何か、説明できる。 ②その他の機能性配合原料（保湿剤など）の種類と機能は何か、説明できる。	小テスト実施
10	香粧品原料7：その他の機能性配合原料2（ビタミンなど） ヘアメイクアップ製品2：スキャルプケア製品 [到達目標] ①その他の機能性配合原料（ビタミンなど）の種類と機能は何か、説明できる。 ②スキャルプケア製品の種類と機能、原料は何か。	小テスト実施
11	香粧品原料8：色材、香料 [到達目標] ①色材の種類は何か、どのような使われ方をするか、説明できる。 ②香料の種類は何か、どのような使われ方をするか、説明できる。	小テスト実施
12	香粧品原料9：雑貨原料 ヘアメイクアップ製品3：パーマ剤 [到達目標] パーマ剤の種類、機能は何か、どのような原理か、説明できる。	小テスト実施
13	ヘアメイクアップ製品4：ヘアカラー剤1 [到達目標] ヘアカラーの種類と機能、原理と原料は何か、説明できる。	小テスト実施
14	ヘアメイクアップ製品5：ヘアカラー剤2、試験対策 [到達目標] ①その他のヘアカラーの種類と機能、原理と原料は何か、説明できる。 ②国家試験を鑑みた後期の重点項目を再確認し、確実な知識を得る。	小テスト実施
到達目標	香粧品の機能と原料を理解し、適切に「お客様へ提案」するための基礎知識を得る。特に、オリジナルシャンプーの成分を明確に理解し、学ぶ姿勢を養う。	
評価方法	前期・後期の筆記試験(80点満点)と各回の小テストの合計(20点満点)で評価する。尚、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することが出来ない。	
テキスト	日本理容美容教育センター編：香粧品化学	

学科	美容科	担当教員	今野				
科目名	文化論	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	7		
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	第1章：総論 第2章：日本の理容業・美容業の歴史						
2	第3章：ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ 近代（明治・大正・昭和20年まで） 現代Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ						
3	第4章：ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ、近世、現代						
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を知り、美の成り立ちやあり方を理解する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）、配布プリント						

学科	美容科	担当教員	高橋、齋藤		
科目名	文化論（美容色彩学）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	23
教育目標・ ねらい	サロンワークに必要な色彩とカラー技術の基礎を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	色のはたらき・光と色 『到達目標』 色の役割を知り、光の性質眼のしくみを学び、色とは何かを理解する。				
2	光と色 『到達目標』 色の役割を知り、光の性質眼のしくみを学び、色とは何かを理解する。				
3	色の表示 『到達目標』 色の分類と三属性（色相、明度、彩度）を学び色の仕組みを理解する。				
4	色の表示（PCCS色相環・トーン） 『到達目標』 PCCS色相環・トーンを学び色の仕組みを理解する。				
5	色の表示（PCCS色相環・トーン） 『到達目標』 色の三属性（色相、明度、彩度）、PCCS色相環・トーンを学び色の仕組みを理解する。				
6	色をつくる（色相環・トーン） 『到達目標』 パステルを使用した基本的な色の作り方を学び、自分がねらった色みを表現することができるようになる。				
7	色をつくる（応用） 『到達目標』 色みをイメージして、自分がねらった色みを表現することができるようになる。				
8	色彩心理 『到達目標』 色が与える心理的影響によりどのように見え方が変化するかを理解する。				
9	色彩心理・色彩調和 『到達目標』 色の基本的な配色方法を学び、色彩調和を理解する。				
10	色彩調和 『到達目標』 色の基本的な配色方法を学び、色彩調和を理解する。				

11	色彩調和・配色イメージ 『到達目標』 色の組み合わせによって与える影響を学び、イメージとは何かを理解する。	
	学科試験	
到達目標	美容師に必要な色彩の知識・色彩検定3級の知識を身につける	
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。	
テキスト	配布プリント	

学科	美容科	担当教員	畠中				
科目名	運営管理	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p>「運営管理」テキストを活用し、経営基本の習得を行う。</p> <p>【到達目標】外部環境の変化やそれに対応する経営資源の配分の仕方の基本を説明できるようになる。</p>						
2	<p>「運営管理」テキストを活用し、「財務・税金の知識」の習得を行う。</p> <p>【到達目標】貸借対照表と損益計算書の見方が分かるようになる。また、税の種類や納税の基礎知識を説明できるようになる。</p>						
3	<p>「運営管理」テキストを活用し、「労働基準法」「労働安全衛生法」の理解・・・小テスト</p> <p>【到達目標】労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる。</p>						
4	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（前編）</p> <p>【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
5	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（後編）</p> <p>【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
6	<p>「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、「価値の知識」の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】としては、理容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる。</p>						
7	<p>テキストを活用し、財務、税務、労基、社保の復習と全体の小テスト</p> <p>【到達目標】 ・サロン運営はどのようにするのかの概略を説明できるようになる。</p>						
8	学科試験						
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目「運営管理」に対応するものとする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	学校から配布する「運営管理」テキストを必ず持参し、当方が準備するプリントをコピーして頂いて、配布して使用						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	美容技術理論	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	11
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1回(2 h)	学ぶにあたって、用具理論/美容技術に必要な基本的知識や用具類の役割および名称を理解する				
2回(4 h)	シャンプーイング/シャンプーイング技術に入るにあたって、シャンプーイングの必要性、技術工程、注意事項を理解する。				
3回(6 h)	ヘアカッティング/ヘアカッティング用のシザーの種類、用途、カット技法、ベーシックなスタイルと作成方法を理解する。				
4回(8 h)	エステティック/エステティックの目的、基本的な技法、皮膚科学や化粧品使用時の注意事項を理解する。				
5回(10 h)	ネイル技術/ネイル技術に必要な用具類とテーブルセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。				
6回(11 h)	学期末試験/これまでの知識をペーパーテストにて測定する (100点満点中60点合格)				
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置や各美容技術の基本知識を十分理解する				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容技術理論	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	13		
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1回 (2 h)	ヘアデザイン/デザインを考えるにあたって、錯視の取り入れ方を中心にデザイン作成の基本的な考え方を修得する。						
2回 (4 h)	パーマネントウェービング/パーマネントウェービングの仕組み、薬剤の種類と使用方法および注意事項、パーマネントウェービングのデザインと技術工程を理解する。						
3回 (6 h)	ヘアセッティング/ヘアセッティングに必要な用具類とテーブルセッティング、各技術の種類と技術工程、デザインの種類を理解する。						
4回 (8 h)	ヘアカラーリング/染毛剤の種類、染毛の仕組み、塗布方法、薬剤の注意事項とパッチテスト方法を理解する。						
5回 (10 h)	メイクアップ/メイクアップ技術に必要な用具類とテーブルセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。						
6回 (12 h)	日本髪、着付けの理論と技術/日本髪の種類と歴史、日本髪の基本的な技術工程と用具類の名称と使用方法、着物の種類と歴史、着付けの基本的な技術工程と帯むずびの種類の理解。						
7回 (13 h)	<b>学期末試験</b> /これまでの知識をペーパーテストにて測定する (100点満点中60点合格)						
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置を十分理解し、美容師としての基礎的技能を習得する。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	19
教育目標・ねらい	毛髪化学を理解し、毛髪の診断やそれに対する処置の仕方、アドバイスをする為の知識技能を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアケアマイスター「3つの説明責任」・第1章 1.毛髪の構造と働き・2.タンパク質とは/3つの説明責任の理解をし、毛髪の構造、タンパク質の理解ができる				
2	第1章 3.pHと毛髪の4つの結合・4.毛髪のダメージの原因・5.毛髪のダメージのプロセス/4つの結合を理解し、毛髪のダメージとは何か理解ができる				
3	第2章 1.毛髪のカウンセリングに対して、・2.お客様の悩みを聞く・3.現状の毛髪の状態を見極める・4.髪質を見極める・5.くせ毛について/1～5で学んだ事を習得し、相モデルでカウンセリングができる				
4	第2章 6.髪質と施術時間と関係・7.毛髪のダメージレベル・8.技術プロセスにおける前・後処理の目的・9.毛髪の健康な状態・10.毛髪の健康診断方法 毛髪のデータ/6～10の知識を習得し、毛髪の診断方法を理解できる				
5	第3章 1.界面活性剤について・2.シャンプー剤の成分と働き、効果・3.トリートメント剤の成分と働き、効果/界面活性剤とシャンプー剤トリートメント剤の知識を習得し、成分と種類を理解できる				
6	第3章 4.スタイリング剤の成分と働き、効果・5.ホームケアアドバイス・○ヘアケア剤Q&A/スタイリング剤の知識を習得、ホームケアを相モデルでアドバイスできる				
7	第1章問題/第1章の知識が理解できる				
8	第2章問題/第2章の知識が理解できる				
9	第3章問題/第3章の知識が理解できる				
10	ヘアケアマイスター PRIMARY 模擬筆記試験/ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができる				

到達目標	ヘアケアマイスター プライマリー検定の知識を習得し、毛髪科学の理解ができ相モデルで実践ができる
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。
テキスト	ヘアケアマイスター ブック
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・渡辺		
科目名	美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	17
教育目標・ ねらい	ヘアケアマイスター PRIMARY コースの検定の知識を基にお客様の毛髪診断、それに対する処置、アドバイスを為に知識技能を修得する。				
授業回	学習内容				備 考
1	はじめに・第1章毛髪化学編 復習・問題/第1章の復習をし再度理解できる				
2	第2章毛髪のカウンセリング編 復習・問題/第2章の復習をし再度理解できる				
3	第3章ヘアケア剤編復習・問題/第3章の復習をし再度理解できる				
4	ヘアケアマイスター PRIMARY 過去問題 /ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができる				
5	ヘアケアマイスター PRIMARY 過去問題 /ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができる				
6	ヘアケアマイスター PRIMARY 過去問題 /ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができる				
7	ヘアケアマイスター PRIMARY 過去問題 /ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができます				
8	ヘアケアマイスター PRIMARY 模擬筆記試験 /ヘアケアマイスター PRIMARY の知識が理解でき、合格点を取ることができます				
到達目標	ヘアケアマイスター PRIMARY コースに合格する				
評価方法	提出課題(作品)・課題レポート(80%)、リアクションペーパー・小テスト(20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	ヘアケアマイスター ブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 カット(ワンレンジス)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ねらい	美容技術・用具についての基礎知識を習得したうえで、基本的なカット技術を的確に施術できるようにする。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回(2 h)	カット技法、シザースの構造、使用後の手入れを説明、開閉練習 /技法毎の特徴を理解する。シザースカットの仕組みが説明できる。						
2~4回 (4~8 h)	開閉練習、ブロッキング、インサイドカット、手入れ /シザースの持ち方と開閉を習得し、毛髪を適切に扱うことができる。						
5回(10 h)	開閉テスト、ブロッキングテスト、ワンレンジスの切り方 /習得した技術を使用して実際に毛髪をカットすることができる。						
6回(12 h)	ワンレンジスの切り方説明・練習 /シザースを使って正確なカットをすることができる。						
7回(14 h)	全頭ワンレンジスカット、ハンドブロー、ラップブロー /ワンレンジスカットの手順を説明できる。						
8回(16 h)	ハーフラウンドブラシの使い方説明・練習、ブロー /ブラシの使い方、風の使い方を理解する。						
9回(18 h)	全頭ブロー、チェックカット /仕上がりからカット、ブローの問題点を判断できる。						
10~13回 (20~26 h)	全頭カット、ブロー、チェックカット、タイム入れ /定められた時間内に全工程を施術し、修正することができる。						
14回(28 h)	ワンレンジステスト(カット30分ブロー30分)、筆記試験 /定められた時間の中で技術と知識を発揮・説明することができる。						
15回(30 h)							
到達目標	基本的なシザースの取り扱いを理解し、カットによる毛髪の変化をブローを加えることで表現することができる。ならびに仕上がりから問題点を判別し、適切な修正ができる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)と筆記試験(100点満点)の平均で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 カット(セイムレンジス)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40		
教育目標・ねらい	頭部の形状を理解させ、頭皮に対して直角に毛髪を引き出せるようにする。施術面の高さや向きに応じて、正しい作業姿勢をとれるようにする。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1~4回 (2~8 h)	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習 /頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。						
5~8回 (10~16 h)	セイムレンジス手順説明・練習 /正確な毛髪の引き出しによって同じ長さで切ることができる。						
9~11回 (18~22 h)	刈り上げによるセイムレンジスカット /基本的なコーム・シザーワークを行うことができる。			坊主			
12~14回 (24~28 h)	セイムレンジス一連手順練習 /1回のシェーブでオンベースに引き出すことができる。						
15~17回 (30~34 h)	セイムレンジス一連タイム入れ /時間を意識して繰り返しオンベースに引き出すことができる。						
18回 (36 h)	セイムレンジス実技試験 /定められた時間内にセイムレンジスカットができる。						
19~20回 (38~40 h)	カットウィッギ創作、撮影 /身につけた技術を想像通りに表現することができる。						
到達目標	頭部の形状を理解したうえで、その形状に沿ったカットができる。セイムレンジスカットの表現を理解し、創作するスタイルに取り入れることができる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 カット(グラデーション)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ねらい	カットにおけるステムとカットラインの変化による表現の違いを理解させる。カットの基本的な技法を理解させ、スタイルに取り入れる想像をさせる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回 (2 h)	開閉とブロッキング練習、パネルの角度とシルエットの説明 /ステムとスタイルの関係を説明できる。						
2~3回 (4~6 h)	ローグラデーションカットの手順説明・練習 /ステムによるシルエットの差を理解する。						
4回 (8 h)	ローグラデーションの一連の工程 /目的に応じたステムにパネルを引き出すことができる。						
5~6回 (10~12 h)	ラウンドグラデーションカットの手順説明・練習 /グラデーションの角度のつけかたを理解する。						
7回 (14 h)	ラウンドグラデーションカットの一連の工程 /リフトアップ・ダウン各々の目的を説明できる。						
8~9回 (16~18 h)	サイドグラデーションカットの手順説明・練習 /グラデーションにおける各テクニックを施すことができる。			①リフティング、②横スライス、③縦スライス、④斜めスライス			
10回 (20 h)	サイドグラデーションカットの一連の工程 /仕上がりを意識してグラデーションカットができる。						
11回 (22 h)	サイドグラデーションウィッグのブロー手順説明・練習 /仕上がりを意識してブローすることができる。チェックができる。						
12~14回 (24~28 h)	サイドグラデーションカット & ブロータイム入れ練習 /仕上がりを想像してカット・ブローができ、時間内に仕上げられる。						
15回 (30 h)	【実技試験】サイドグラデーションカット & ブロー /目標となるスタイルに対して意図した技術を施すことができる。						
到達目標	基礎となるカット技法を理解するとともに、表現や目的に応じたテクニックを理解している。仕上がりを想像し、カット技法の選択、ブローによる仕上げができる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	美容実習 カット(メンズスタイル)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	38
教育目標・ねらい	性別による毛髪の質の違い、留意点を理解させ、表現の幅を広げる。強さやシャープさという表現のための技法を身につけさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1回 (2 h)	性別により求められる表現の違い、頭部の形状の特徴 /性別ごとにベースとなるスタイル、頭部の形状の違いを説明できる。				
2回 (4 h)	ワンレングス、グラデーションカットのおさらい /基礎となるカッティング技法の特徴を理解する。				
3回 (6 h)	セニング、ポインティング、スライドカットの確認・練習 /スタイルを表現するためのカッティング技法を理解する。				
4回 (8 h)	レイヤー、セイムレングスカットのおさらい /基礎となるカッティング技法を理解する。				
5~6回 (10~12 h)	セニング、ポインティング、スライドカットでのスタイル表現 /習得したカッティング技法を使用し、スタイルを表現できる。				
7~8回 (14~16 h)	ツーブロック、ブロースタイリング /ツーブロックの特徴を理解し、スタイリングができる。				
9~10回 (18~20 h)	ソフトモヒカン、坊主、ブロースタイリング /毛髪の長さによるスタイルの変化を理解し、スタイリングができる。				
11~12回 (22~24 h)	試験スタイルの展示・練習 /身についたカッティング技法を用いて、任意のスタイルを表現できる。				
13~15回 (26~30 h)	試験スタイルのタイム入れ練習 /定められた時間内に正確なカッティング技法を用いることができる。				
16回 (32 h)	メンズスタイル試験 /定められた時間内に正確なカッティング技法を用いることができる。				
17回 (34 h)	デザインシート作成 /身につけた技術から独自のスタイルを創造することができる。				
18~19回 (36~38 h)	デザインシートを基にスタイル作成 /自身で想像したスタイルを創り出すことができる。			各クラス映えるもの を選出→インスタ	

到達目標	自信の持っている技術や技法からどのような表現が可能か想像することができる。また、想像したスタイルを実際に作品として表現することができる。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 パーーマ(オールパープス)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	80		
教育目標・ねらい	ワインディング技術を通して、頭部の各ブロックの特徴を理解させる。頭部と技術者の体の適切な位置関係を理解させる。コードの基本的な動作を身につけさせる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回 (2 h)	ワインディング理論、ウィッグ・コード等を使用しながら確認 /基礎となる理論を理解し、作業の想像ができる。						
2回 (4 h)	コードワーク、ブロッキング /コードを用いて任意に毛髪の分けとりができる。						
3~5回 (6~10 h)	ブロッキング、ウィッグカット /カットを通して各部のシステムやスライスを理解し、作業に適した長さ・角度で毛髪を切ることができる。						
6~8回 (12~16 h)	ブロッキング、上巻き展示・練習 /ワインディング技術における注意点を説明できる。						
9~13回 (18~26 h)	ブロッキングタイム入れ、上巻き、下巻き展示、練習 /基礎となる上・下巻きを適切に行うことができる。						
14~17回 (28~34 h)	ブロッキングタイム入れ、センター巻き練習 /定められた時間内に正確な分け取りができる。						
18~21回 (36~42 h)	1本1分巻き、センタータイム入れ /定められた時間内に上・下巻きを正確に行うことができる。						
22回 (44 h)	25分センター試験 /定められた時間内に毛髪の分け取りからワインディング作業までを正確に行うことができる。						
23~28回 (46~56 h)	左右バックサイド・サイド展示、練習 /頭の丸みを理解し、ロッドをオンベースに巻き取めることができる。						
29~39回 (58~78 h)	全頭50分→30分タイム入れ、基礎練習 /全頭巻き取める工程、仕上がりから不足している技術を判断できる。			授業回数とともに 設定タイムを短く			
40回 (80 h)	全頭30分試験(ブロッキング3分でとった後) /定められた時間内に全頭巻き取めることができる。			全頭30分			
到達目標	頭部の形状を理解し、頭皮に対して任意の角度に毛髪を分け取り引き上げることができ る。基礎となるワインディング技術を習得し、頭部の各部において複数径のロッドを正確 に巻き取めることができる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	美容実習 セット(夜会巻き)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ねらい	セット技術における用具類の取り扱い方、セット剤の種類と用途、スタイル作成に必要な基礎的知識技能を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1~2h (1回)	ウイッグの洗い方を通して道具を丁寧に使うことの意味を知ることができる 作業しやすい道具配置からお客様を意識したテーブルセッティングができる				
3~4h (2回)	夜会巻きを上手に作るための仕込みの大切さを理解する ワックスの量から塗布の仕方・ドライヤーによる癖づけ・ホットカラの使い方がわかる				
5~6h (3回)	夜会巻きを上手に作るための仕込みの大切さを理解する ワックスの量から塗布の仕方・ドライヤーによる癖づけ・ホットカラの使い方ができる ※②の復習 夜会巻きの土台となる1束の結び方ができる				
7~10h (4, 5回)	③の復習 すき毛の作り方、つけ方、ピンの使い方、逆毛の立て方ができる			※ここまで工程が仕込み試験のチェックとなることをつたえる	
11h~14h (6, 7回)	仕込みまで35分でタイム入ることができる 夜会巻きねじり上げの仕方ができる			・コームの使い方 ・ピンの使い方 ・体制もチェックする	
15h~16h (8回)	仕込み35分&夜会巻きねじり上げのチェック15分			・コームの使い方 ・ピンの使い方 ・体制もチェックする 《仕上がり審査》	
17h~18h (9回)	夜会巻き上半分（逆毛のたて方、すき毛の付け方、ピンの止め方） 覚えて制作できる				
19h~20h (10回)	仕込みから夜会巻き1体完成させる タイムに入れることができる（仕込み30分、仕上げ30分）				
21h~26h (11~13回)	・タイム入れができる（仕込み25分、仕上げ25分） ・タイムに入れができる（仕込み25分、仕上げ20分）			進み具合をみてタイム入れの進行 (⑩には仕込み20分、仕上げ20分)	
27h~28h (14回)	模擬試験（仕込み25分、仕上げ20分）セット試験準備				
29h~34h (15~17回)	セット試験（仕込み25分、仕上げ20分）				

35h~40h (18回~20回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コテの使い方を覚える（リバース、フォワード）</li> <li>コテを使った作品を作れるようになる</li> <li>人頭でセットが出来る</li> </ul>	
到達目標	用具類の取り扱い方、セット剤の種類と用途を理解し、夜会巻きスタイル作成に必要な面構成の基礎的知識技能を修得する。	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う	

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	美容実習 (サイドシャンプー)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ねらい	顧客との距離感を掴み、正しい作業姿勢を身につけることで故障を予防させる。顧客それぞれの毛髪や頭部の形状の違いを理解させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標				備 考
1~2回 (2~4 h)	用具の説明、タオル・クロスの掛け方、ブラッシング説明・練習 /顧客との距離感を理解し、正しい作業姿勢をとることができる。				
3~6回 (6~12 h)	ブラッシング、マッサージ説明・練習(相モデル) /顧客に力加減を確認し、最適化することができる。				
7~9回 (14~18 h)	復習、教室にてウィッグを使用してシャンプー手順を説明・練習 /頭部の形状や手技の種類を理解する。				
10~11回 (20~22 h)	実習室の使用方法と注意、ご案内、ブラッシング、プレーンリンス /設備の使用方法を理解し、安全に使用することができる。				
12~13回 (24~26 h)	ご案内、ブラッシング、プレーンリンス、ワンシャンプー /毛髪を十分に濡らし、シャンプー前の処理ができる。				
14~15回 (28~30 h)	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ /シャンプーによって十分に汚れを落とすことができる。				
16~17回 (32~34 h)	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ通し練習 /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。				
18~19回 (36~38 h)	ワンシャンプーテスト /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。				
20回 (40h)	筆記試験				
到達目標	作業に適した姿勢や、頭部の形状に対する手技等と理解し、説明できる。各技術の目的を説明でき、それに沿って施術をすることができる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)及び学科試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (サイドシャンプー)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40		
教育目標・ねらい	シャンプー技術の意義を理解し、施術前後の毛髪と頭皮の状態の変化を想定させる。基本的な技術とともに、他の技術の前後処理としての技術を理解させる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回 (2 h)	前期復習、前後処理の種類、シャンプーの目的・意義の確認 /他の技術の関連、施術の意義を説明できる。						
2~3回 (4~6 h)	前期復習(ご案内～ワンシャンプー～マッサージ) /改めて顧客との適切な距離や姿勢、その意義を確認する。						
4~7回 (8~14 h)	ツーシャンプー手順説明・練習 /各シャンプーの目的の違いを説明できる。						
8~12回 (16~24 h)	ご案内～ツーシャンプー～マッサージ練習 /適切な手順で施術ができる。						
13~18回 (26~36 h)	ツーシャンプー一連タイム入れ /定められた時間内手順通りに施術できる。						
19~20回 (38~40 h)	ツーシャンプーテスト /定められ時間内に適切な施術ができる。						
到達目標	シャンプーと他の技術や薬剤との関連を理解し、前後処理としての役割を説明できる。各シャンプーの目的の違いを意識して、施術することができる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (メイクアップ)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40		
教育目標・ねらい	各目的に合わせたメイクアップを理解させ、顔の特徴に合わせて施術できるようにする。 道具を表現の違いに合わせて使用し、似合わせを意識させる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回 (2 h)	メイクアップ理論、道具の説明、手入れの仕方 /メイクの目的と関わる要素について説明できる。						
2回 (4 h)	スキンケア手順説明・練習(相モデル) /スキンケアの各工程の目的を説明できる。			教科書P86~88			
3~4回 (6~8 h)	ベースメイク手順説明・練習(相モデル) /ファンデーションの種類と色を目的に応じて選択することができる。			教科書P88~95			
5~6回 (10~12 h)	アイ・アイブロウ・リップメイク手順説明・練習(相モデル) /各部位の変化による印象の変化を認識する。			教科書P95~103			
7回 (14 h)	まつ毛エクステンション理論、装着練習 /まつ毛の特徴、技術上の留意点を説明できる。			教科書P104~111			
8~13回 (16~26 h)	スキンケア、ベース、各部メイク仕上げ(目標題材)タイム入れ /定められた時間内にメイクアップを完成することができる。						
14回 (28 h)	実技試験 /定められた時間内に必要な施術を終えることができる。						
14~16回 (26~32 h)	テーマ「※開催日1週間前に発表」デザイン決め、練習、撮影 /テーマに合わせて技術を選択し表現できる。			作品撮りとして撮る 為、服装も準備			
17~20回 (34~40 h)	フリーテーマ、デザイン決め、練習、撮影 /自身で完成形を想像し、過程を組み立てることができる。			作品撮りとして撮る 為、服装も準備			
到達目標	メイクの目的、メイクに関わる複数の要素を説明できる。さらに、顔の特徴に対して目的のメイクを叶えるための技術や道具の選択が適切に行える。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (ネイル)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24		
教育目標・ねらい	手指及び爪周辺の健康と美しさを保つための技術と知識を身につける。顧客に触れる部分であることから常に衛生状態への関心を高めさせる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回(2 h)	[導入]教材配布、事前準備、ケア手順説明(座学) /テーブルセッティングの配置の意義を説明できる。						
2回(4 h)	ケア手順説明、手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング /爪の形状5種を理解し、任意の形状に施術できる。						
3回(6 h)	前回内容、キューティクルクリーン、キューティクルプッシュ /処置すべき部位とそうでない部位を見分けることができる。						
4回(8 h)	ケア一連確認しながら施術 /施術上の留意点を認識し、一連の手順を理解する。						
5回(10 h)	ケア一連(30分) /定められた時間の中で、一連の手順を施術することができる。						
6回(12 h)	カラーリング手順説明、カラーリング練習 /手指の構造から、正しい手順でポリッシュ塗布を行うことができる。						
7回(14 h)	油分除去、カラーリング /爪甲部に過不足なくポリッシュ塗布を行うことができる。						
8回(16 h)	カラーリング練習(30分) /定められた時間の中で爪甲部の8割以上に塗布ができる。						
9回(18 h)	ケア・カラーリング一連(60分) /定められた時間内に正しい手順で施術を行うことができる。						
10回(20 h)	ケア・カラーリング一連(60分) /定められた時間内に正しい手順で施術を行うことができる。						
11回(22 h)	ネイルチェック60分(相モデルA・B)・筆記試験 /施術上の留意点、正しい手順の理解を確認する。						
12回(24 h)							
到達目標	手指及び爪周辺の構造を理解し、ネイルケア施術の意義を説明できる。ならびに、ネイルケア施術の手順を理解し、説明及び施術を十分(8割以上)に行うことができる。						
評価方法	実技試験(ABC評価)ならびに筆記試験(100点満点)で総合的に評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (ヘアカラーリング)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ねらい	基礎的な毛髪知識に加え、各種染毛剤の及ぼす影響を理解し、毛髪を任意の色に変化させるための薬剤や手順等を自ら考えられるようにする。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回(2 h)	毛髪の構造、染毛剤・料の種類、毛質による染色の違いの説明 /染毛のメカニズムを説明することができる。						
2回(4 h)	グレイカラーの塗布手順の説明・練習 /白髪の特徴から塗布手順の意義を説明できる。			トレーニングクリームを使用			
3回(6 h)	リタッチ、トーンダウンの塗布手順の説明・練習 /リタッチ、トーンダウン時の留意点について説明できる。			〃			
4回(8 h)	トーンアップ、マニキュアの塗布手順の説明・練習 /トーンアップ、マニキュア塗布の留意点について説明できる。			〃			
5回(10 h)	ウィッグ全頭ブリーチ /薬剤の反応を確認する。塗布量、薬剤の配合による変化を理解する。			ブリーチ剤使用 4プロックで時間、 2剤の倍率を変更			
6回(12 h) チェック	5回で使用したウィッグを全頭同トーンにする。 /薬剤の反応を想定し、適切な施術ができる。						
到達目標	各染毛剤・料の性質を理解し、毛髪の状態や希望する色調に対して適切な薬剤を想定する ことができる。ならびに施術手順に関しても意義をもって考えることができる。						
評価方法	仕上がり・手順・薬剤選定の3項目から総合的に判断し、4段階評価(A~D)にて評価する。 なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (ヘアカラーリング)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ねらい	各染毛剤・料の性質から、任意の色調・デザインを表現することができるようになる。目標とする色を表現したうえで、全体のデザインへと昇華させる。						
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考			
1回(2 h)	カラーチャート作成(毛束のブリーチ) /脱色剤の性質を再確認し、説明できる。						
2回(4 h)	カラーチャート作成(各毛束の染毛) /毛髪の状態による発色の変化を説明できる。						
3回(6 h)	グラデーション、パレイヤージュ、ハイライト /手順、塗布量等によるデザインの違いを説明できる。						
4回(8 h)	デザイン考想・決定、デザインシート記入 /現状の知識と技術から実現可能なデザインを想定することができる。			トータルデザイン として考想			
5回(10 h)	デザインカラーウィッグの作成 /想定したデザインへの道筋を論理的に組み立てることができる。			メイクや装飾も 独自性として			
6回(12 h) チェック	デザインカラーウィッグの作成 /想定した仕上がりとの差異を認識し、改善策を考えることができる。			評価の対象とする (加点項目)			
到達目標	各染毛剤・料の性質を理解したうえで、毛髪の状態から仕上がりを想定し、任意のデザインを目指すことができる。						
評価方法	仕上がり・独自性・想定デザインの実現率から総合的に判断し、4段階(A~D)で評価する。						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (美翔祭)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24		
教育目標・ねらい	これまで学んだ美容技術とビジネスマナーを学園祭の模擬店を通して一般のお客様に提供し成功体験をする。						
授業回	学習内容			備 考			
1回～6回 (12 h)	模擬店の企画、立案/これまで学んだ美容技術でどこまで提供できるかの案を出し合いプレゼンテーションをする						
7回～9回 (18 h)	模擬店で提供する技術を復習する/お客様へ提供できるレベルへ相モードルでチェックし到達する						
10回～12回 (24 h)	学園祭当日/模擬店を運営する						
到達目標	模擬店において必ずお客様へ技術を提供する						
評価方法	模擬店への参加及び技術提供じにフィードバックシートを記入してもらい評価とする						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	美容実習 (実務実習)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60		
教育目標・ ねらい	自らの進路目標を早期に明確化し、進路目標の設定に伴って、教科科目に対する学習意欲を喚起する						
授業回	学習内容			備 考			
1~10回 (60 h)	サロンワークにおける基本的な実務の理解と、学内において学んだ美容技術をどのように実践するかを学ぶ / 美容技術を実践する。また、現場を構成する人間関係の中に身を置き、異なる年齢や立場の違うスタッフとのコミュニケーション能力を高めることの意義を理解する						
到達目標	現場経験を通じた自己理解の深化と、自己の職業適性や将来設計について考え、主体的に進路を選択できる力の養成						
評価方法	実務実習要項の到達目標の評価（5段階）とサロン指導者の評価（5段階）の平均で評価する。						
テキスト	実務実習要項、ビジネスマナーテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	船田		
科目名	美容美術	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	デッサンの基本的な技法を学び、視覚的に他人に情報を伝えるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1,2,3	クラスメイトに各5分ずつモデルになってもらい、人物クロッキーを行う。				
4	鉛筆を用いるデッサンの技法を紹介し、様々な技法を使ってスケッチブック にドローイング（描画の実験）を行う。				
6,7,8	実在の人物のヘアスタイルを考えてスケッチをつくる。デッサンとクロッキー の中間くらいの密度で、他人に伝わることを目指す。				
9,10	ヘアデザイン画に取り掛かる。案出し、アイデアスケッチ等を行う。				
11,12	ヘアデザイン画の続きをを行う。				
13,14	ヘアデザイン画の続きをを行う。				
15	ヘアデザイン画完成。鑑賞する。				
到達目標	鉛筆などのデッサンに必要な画材の使い方や可能性を理解する。描画した平面に何が、どのように描かれているのか伝えることができる。				
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート（80%）、リアクションペーパー・小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	随時用意				

学科	美容科	担当教員	八木				
科目名	表現技術	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必須	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	どんな職業に就いても、社会人として必要なビジネス知識やマナーをワークブックにまとめながら覚える。学ぶ順：言葉づかい→電話応対						
授業回	学習内容			備 考			
1	社会人としての心構え。話しかけ方、聞き方のポイント。 【到達目標】言葉づかいで人間関係が変わるという意味を知る。			ワークブック 小テスト①			
2	好感のもたれる話しかけ方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の復習） 【到達目標】敬語の文法を再確認し、日常会話で使えるようになる。			ワークブック 小テスト②			
3	敬語の練習問題 【到達目標】さまざまなケースを練習して社会人としてふさわしい言葉遣いができるようになる。			ワークブック 小テスト③			
4	電話応対のマナーと配慮するポイント。 【到達目標】職場での電話応対がスムーズにできるよう基本的な流れを理解する。			ワークブック 小テスト④			
5	電話の受け方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、会話の流れや言葉づかいで覚える。			ワークブック 小テスト⑤			
6	電話のかけ方 【到達目標】かけ方のポイントと基本的な言葉遣いができるようになる。			ワークブック 小テスト⑥			
7	電話のかけ方 【到達目標】さまざまなケースで練習し、電話を通して言いたいことが適切に言えるようになる。			ワークブック 小テスト⑦			
	学科試験						
到達目標	ビジネス会話、電話応対の知識とスキルをワークブックをまとめながら覚え、実践できる。同僚、上司、お客様との会話や電話応対がストレスなくスムーズにできる。						
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート（80%）、小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。						
テキスト	ビジネスマナーワークブック						

学科	美容科	担当教員	八木		
科目名	表現技術	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールの書き方を通して、ビジネス実務を身につける。新聞記事のトピックを説明し時事用語、ビジネス関連常識を増やす。				
授業回	学習内容				備 考
1	「オリエンテーション」「挨拶・第一印象」「ビジネス検定3級とは」「働くということ・自律と自立」「接遇やビジネスマナーの基本」「敬語」「敬語小テスト実施」				
2	「キャリアの考え方」「会社の基本とルール」「8つの意識①」「ケース問題の練習と解き方のコツ」「ビジネス略語の説明・暗記・小テスト実施」				
3	「8つの意識②」「コミュニケーションの基本①」「ビジネス用語①」「新聞の見方」「新聞記事問題練習」「小テスト実施」「練習問題/過去問題」				
4	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「身だしなみ・職場でのルール・コミュニケーションの基本②」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」				
5	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「ビジネス用語②」「ビジネス話し方・敬語の使い方・聞き方の基本」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」				
6	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「ビジネス用語③」「指示・報告・連絡・相談」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」				
7	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「来客応対・面談・名刺交換などのポイント」「練習問題/過去問題」「ケース問題練習」「小テスト実施」				
	学科試験				
到達目標	社会人2年目くらい迄のビジネス系知識、就職活動や職場での仕事に直結して活かせるビジネスマナーや教養、コミュニケーション能力を獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	ビジネスマナーワークブック				

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	ビジネスマインド（ビジネスマナー）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる相手への気配り・心配りの意義を深く理解する。 そして、それを形として表現するための各種技法の意味を理解し、適切に実践できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】→職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネス マナー テキスト p1~2	
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】→『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネス マナー テキスト p9~13	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 時間意識 納期意識 健康意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナー テキスト p5~6	
4	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック・、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】→職業人（美容師）としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナー テキスト p3.p17 ~24	
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】→良質なコミュニケーションを築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネス マナー テキスト p4.7~ 8	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】→職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネス マナー テキスト p51~ 54	
7 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
8 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
9	宿泊オリエンテーション 振り返り LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」目標意識 顧客意識			ワークシート テキストP5~6	
10	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 協調意識 改善意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナー テキスト p5~6	

11	<p>LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 品質意識 コスト意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。</p>	ビジネス マナー テキスト p 5~6
12	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方と マナー」 【到達目標】→守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守つ て生活することができる。</p>	ビジネス マナー テキスト p 55~56.68~69
13	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の 提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。</p>	ビジネス マナー テキスト p 25~ 40
14	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の 提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。</p>	ビジネス マナー テキスト p 25~ 40
15	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応① 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、 5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、入店（就職）後に実践できるよう にする。</p>	ビジネス マナー テキスト p 41~49.70~71
16	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応② 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、 5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、入店（就職）後に実践できるよう にする。</p>	ビジネス マナー テキスト p 41~49.70~71
17	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職） 後に実践できるようにする。</p>	ビジネス マナー テキスト p 56~ 67
18	<p>クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職） 後に実践できるようにする。</p>	ビジネス マナー テキスト p 56~ 67

19	実務実習事前指導	ワークシート グループワーク
20	実務実習事後指導	ワークシート グループワーク
21	クラス目標・個人目標振り返り  LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」  【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職） 後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 64~67
22	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際 の演習①  ・「振る舞い」　・「表情」　・「言葉遣い」	
23	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際 の演習②  ・「質問」　・「インタビュー」　・「聞く」	
到達目標	実務実習・学外実習等、学外で店舗顧客と相対する際、学んだ知識、技術そして心構えを 適切に活かして顧客からの信頼を得ることができる。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価 と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生 は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	美容科	担当教員	藤原				
科目名	高度総合美容技術理論 (美容英会話)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義及び演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10		
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンのシチュエーションで、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる。 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	Warm Up -自己紹介 Unit 1 - Dates and Times <b>【到達目標】</b> ・ 基本的な挨拶、時間、曜日、日付の会話表現を習得する						
2	Warm Up - 異文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ Unit 2 - Greeting A Client <b>【到達目標】</b> ・ 挨拶からお待ちいただくまでの会話に必要な単語やフレーズを習得し、会話をする						
3	Warm Up - 異文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ Unit 4 - Chatting with A Client Unit 5 - Shampooing <b>【到達目標】</b> ・ 出身地、天気、趣味等のやりとりやシャンプー関連の単語やフレーズを習得し、会話を英語で行う						
4	Warm Up - 異文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ Review - Unit 4, 5 の復習 Unit 6 - Counselling <b>【到達目標】</b> ・ 頭部のボキャブラリ、お客様のカウンセリング関連の単語やフレーズを習得し、カウンセリングを英語で行う						
5	Warm Up - Unit 6 の復習 Unit 7 - Cutting Role-play 実践的な練習 <b>【到達目標】</b> ・ 髮型関連のボキャブラリ、フレーズの習得 ・ 全5回で習得した知識を使って英語で会話を行う						
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	English for Beauty Salons						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	高度総合美容技術理論 (展示授業)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6		
教育目標・ねらい	現場の技術のデモンストレーションを通して、様々なサロンのコンセプトや運営形態の違い、技術の応用を学び、自身が働いてみたいサロンや美容師としてのロールモデルを見つける						
授業回	学習内容			備 考			
1回 (2 h)	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション (詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について) /各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる						
2回 (4 h)	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション (詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について) /各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる						
3回 (6 h)	就職活動の仕方、サロンの探し方や選び方について学ぶ/サロン事の特性や基本情報の見方を理解する。						
到達目標	自身のキャリアプランを示すことができるようになる						
評価方法	プリント提出						
テキスト	各サロン事の情報資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						

学科	美容科	担当教員	立花				
科目名	高度総合美容技術実習 (香粧品製造)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	9		
教育目標・ ねらい	国家試験の意識と現場でも必要な知識を香粧品製造を通して学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p><b>【ヘアシャンプーの製造】</b>            基本となる高級アルコール系界面活性剤を配合したヘアシャンプーの製造。配合成分や製造方法の解説、実際に製造を行い洗浄剤に対しての知識を深める。            シャンプーの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアシャンプーの製造に必要な原料の準備</li> <li>・作成物を充填する容器</li> </ul>			
2	<p><b>【アミノ酸系ヘアシャンプーの製造】</b>            高級アルコール系界面活性剤を使用したヘアシャンプーとの違いや髪質により使い分けができるよう処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行い洗浄剤に対しての知識を深める。            シャンプーの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアシャンプーの製造に必要な原料の準備</li> <li>・作成物を充填する容器</li> </ul>			
3	<p><b>【ヘアトリートメントミルクの製造】</b>            ヘアトリートメントミルクの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いトリートメント剤に対しての知識を深める。            ヘアトリートメントの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアトリートメントミルクの製造に必要な原料の準備</li> <li>・作成物を充填する容器</li> </ul>			
到達目標	高級アルコール系とアミノ酸系シャンプーの成分による使用感や髪質による相性の違い、界面活性剤の違いによりトリートメントとの作用機序の違いを理解し、製造できる。						
評価方法	対象とする試作品と同等のものを作製できること。						
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える						

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	高度総合美容技術実習 (選択授業ヘアデザインコース)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ねらい	ヘアデザイン制作に必要な展開図の知識、それを再現するためのカット、プロースタイリングの技術を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1回～3回 (6 h)	サロンスタイル①・展開図(ワンレンジス～ローグラデーション) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる				
4回～6回 (12 h)	サロンスタイル②・展開図 (ローグラデーション 質感調整&ブロー) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、プロースタイリングができるようになる				
7回～9回 (18 h)	ダイアグラム① (ワンレンジススタイル) /ダイアグラムの書き方を理解し指定スタイルを仕上げることができる				
10回～12回 (24 h)	サロンスタイル③・展開図 (前下がりグラデーション ベースカット) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる				
13回～15回 (30 h)	ダイアグラム② (グラデーションスタイル) /ダイアグラムの書き方を理解し指定スタイルを仕上げることができる				
16回～18回 (36 h)	サロンスタイル④・展開図 (前下がりグラデーション 質感調整&ブロー) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、プロースタイリングができるようになる				
19回～21回 (42 h)	ジオメトリック・カット①・展開図 (カット&ブロー 匠すと競技作品) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる				
22回～23回 (46 h)	ジオメトリック・カット②・展開図 (ブロー&スタイリング 匠すと競技作品) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、プロースタイリングができるようになる				
24回 (48 h)	カラーリング (部分ブリーチ塗布、ウェービング) /指定スタイルのカラーリングができるようになる				
25回 (50 h)	カラーリング (オンカラー ヘアマニュキア) /指定スタイルのカラーリングができるようになる				
26回～27回 (54 h)	ジオメトリック・カット③・展開図 (ブロー&スタイリング 匠すと競技作品) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、プロースタイリングができるようになる				
28回～30回 (60 h)	作品制作、発表 (プレゼンテーション) 、写真撮影/これまで学んだ技術を用いて作品制作をし、プレゼンテーションをすることができる。				

到達目標	スタイルの読み解き、展開図の作成、カットプロースタイリング技術を用いてそれらを再現する力が身についている。
評価方法	作品提出、プレゼンテーション
テキスト	技術テキスト（プリント）
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山		
科目名	高度総合美容技術実習 (選択授業トータルビューティコース)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ねらい	ヘアメイクやトータルビューティージェルを美容師の教養として学び、ネイルの知識、技術を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1回	各種用具の名称および使用方法、検定要項の確認と理解 /検定に必要な情報の理解				
2回～3回	美容実習で修得した「ネイルケア」技術の復習を相モデルで行う /ネイルケアが一通り実施できる				
4～6回	ジェルネイル基礎/テーブルセッティングの配置と消毒管理について説明できる				
7～8回	ネイルケア～ジェルネイル/ネイルケア一連(35分タイム入れ)、ジェルネイル手指消毒、ジェルネイル塗布について理解ができる				
9回	学科対策/ネイルに関する基礎知識(爪の構造、爪のトラブル)を理解することができる				
10～11回	ネイルケア～ジェルネイル/ジェルネイルアート(初級課題ピーコック)のアートを理解し、描くことができる				
12回	学科対策/ネイルに関する基礎知識(衛生と消毒)を理解することができる				
13～14回	ネイルケア～ジェルネイル/定められた時間内の中で一連の流れを理解することができる				
15回	学科対策/ジェルネイルに関する基礎知識を理解することができる				
16回～17回	ネイルケア～ジェルネイル/定められた時間内に正しい手順に沿って塗布することができる				
18回	学科対策/検定試験初級当日の流れに合わせ、ネイルの基礎知識(衛生と消毒)、ジェルネイルに関する知識が理解できる				
19回～21回	模擬試験/検定試験初級当日の流れに合わせ、時間内に正しい施術を行なうことができる				
22回～24回	【JNAジェルネイル検定試験 初級】/ネイルケアのベーシックとジェルネイルを施術するための必要な基礎知識と技術ができる				
25回～27回	ジェルアート/基礎知識を活かした応用技術の習得、デザインが作れる(ピーコック応用、グラデーション、フレンチネイル)				
28回～30回	ジェルアート/基礎知識を活かした応用技術の習得、デザインが作れる(チェック柄、ツイード柄、ニットネイル、ミラーネイル)				

到達目標	ジェルネイルの基礎知識、技術を身に付け、ジェルネイルアートの基本的テクニックを修得する。
評価方法	検定実技試験、ジェルネイルアート作品制作
テキスト	JNAテクニカルシステム（ジェルネイル）、模擬学科プリント配布
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う

学科	美容科	担当教員	斎藤・若松・外山				
科目名	高度総合美容技術実習 (匠すと)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	21		
教育目標・ねらい	匠すと（校内コンテスト）の各競技内容に合わせて、美容技術理論の基礎および技術内容の理解をすることが出来るようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1回 (2 h)	匠すとの競技内容の理解と実施計画の作成 /各自が出場する競技内容が全て説明でき、当日までの計画を作成する						
2回～5回 (8 h)	各競技ごとにおいて仕込みを行う /計画に基づいた仕込みができている						
6回～8回	各競技ごとにおいて本番を想定したタイム入れ /競技規定に沿った作品を仕上げることができている						
9回～11回	【匠すと（校内コンテスト）】 /各競技規定に則り作品を完成させる						
到達目標	1年次に修得した技術を用いて、各競技ごとに応用力を発揮することができるようになる。						
評価方法	課題提出（競技内容によって提出内容は異なる）						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う						